

沈下と隆起

昭和 21 年 (1946) 12 月 21 日に発生した南海地震は、四国各地に地震と津波の被害をもたらしましたが、地盤変動による沈下と隆起が被害をさらに大きく、長引かせることになりました。地盤沈下した愛媛県松山市と隆起した高知県土佐清水市の例をご紹介します。

■北温海岸の沈下 (愛媛県松山市)

昭和南海地震は、愛媛県内の多くの海岸線で地盤沈下を引き起こしました。「四国地方地盤変動調査報告書」によると、沈下量は壬生川町 (現西条市) の 55cm を最大として、各地で数十 cm となっています。地盤沈下により、海岸沿いの各地では高潮被害に見舞われることになりました。北条町 (現松山市) では、昭和南海地震及び昭和 25 年のキジア台風による高潮被害が床上浸水 234 戸、床下浸水 581 戸、護岸決潰 5 箇所、堤防破損 4 箇所等に及びました。このため、北温海岸では海岸保全工事が行われ、昭和 36 年に竣工しました。北温海岸防波堤竣工記念碑には、この海岸の地盤沈下は約 60cm と記されています。<北条市誌編集委員会編「北条市誌」1981 年、四国地方経済復興開発委員会地盤変動調査専門委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第九集」1951 年など>



■唐船島の隆起 (高知県土佐清水市)

昭和南海地震により、高知県の海岸線では地盤の隆起と沈下が起こりました。「四国地方地盤変動調査報告書」によると、土佐湾の東端の室戸岬で約 1m、西端の足摺岬で約 60cm 隆起して港への船の出入りに支障をきたすようになる一方で、高知市と須崎市の付近では約 1m 沈下するなど各地で沈下が起こり、住家や田畑等が浸水被害をこうむることになりました。土佐清水市の清水港内東奥にある唐船島 (とうせんじま) は、島裾に残っていた貝類等の付着跡と地震後の汀線によって、昭和南海地震により約 80cm 隆起したことが明らかとなり、地質学の貴重な資料として昭和 28 年に国指定の天然記念物になりました。<南海大震災誌編纂委員会編「南海大震災誌」1949 年、四国地方総合開発委員会地盤変動調査専門委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第一輯」1949 年など>

